

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370259

研究課題名(和文) 尼寺の文芸文化と物語草子・仮名法語における相互連関の研究

研究課題名(英文) Studies on the Literature and Cultural Activities in Buddhist Nunneries, and the Relationships between the Larger World of Vernacular Tales and Vernacular Buddhist Tales

研究代表者

恋田 知子 (KOIDA, TOMOKO)

国文学研究資料館・研究部・助教

研究者番号：50516995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：室町時代から江戸時代前期における寺院と貴族社会との交流を示す仮名法語類を中心に調査・研究をおこなった。とくに、禅宗の尼僧による問答を主軸とする物語草子で、仮名法語としての側面も有し、室町期の寺院と貴顕との交流をもうかがわせる『幻中草打画』の最古写本、および新出伝本の原本調査の機会に恵まれた。当該作品を中心に、江戸初期の仮名法語の開版と物語草子制作との連動性についても考察し、口頭発表、論文執筆、新聞寄稿など、研究成果の公開に努めた。

研究成果の概要(英文)：I researched mainly those vernacular Buddhist tales which show how members of the aristocracy interacted with temples in the Muromachi and early Edo period. I was granted an opportunity to investigate the oldest extant manuscript of the most copied book of that time, namely, Genchu sodaga 幻中草打画, as well as another newly discovered manuscript of that same work. This is a vernacular tale (monogatari soshi) in which Zen nuns and monks engage in a debate, containing also elements from the genre of vernacular Buddhist sermons (kana hogo). In this tale, we catch a glimpse of the ways in which members of the nobility might have interchanged with certain temples in the Muromachi period. In this research, I have considered possible relationships between the publication of vernacular Buddhist tales and the larger world of vernacular tales in the early Edo period. I have endeavored to share the results of my work through presentations, articles, and a newspaper contribution.

研究分野：日本文学

キーワード：尼寺 尼 物語草子 仮名法語 寺院 絵巻 奈良絵本 説話

1. 研究開始当初の背景

近年の物語草子をめぐる研究は、物語内容の読解や生成の問題はもとより、具体的な絵巻・絵本の制作実態、貴顕や寺院など生成・享受の場にかかわる具体的様相、東アジアの物語伝承との比較文化的考察など多岐にわたっている。なかでも当代文学への影響力からとくに重視される寺院活動との関連については、全国各地の寺院の聖教・唱導文献調査が急速に進展し、寺院における知の体系が解明されるなか、談義唱導活動ネットワークの具体相や僧侶による物語草子受容の実態が明らかとなりつつある。しかしながら、草子化にいたるまでの道程や、物語草子から談義・唱導の場への還流など、生成・享受の場に照らした変容の具体相についてはほとんど考察が及んでいないのが現状である。

こうした研究状況にあつて、応募者はお伽草子、絵巻、語り物などの室町期を中心とした物語文芸を「物語草子」として巨視的にとらえ、談義・唱導の場で生成・享受された談義・注釈書およびその説話と対照させることで、その相関関係を明示しながら、室町文芸の実態を考察してきた。その結果、物語草子群の多くが書写、絵巻化、貸借という面で比丘尼御所を介しており、寺社縁起や物語草子、あるいは公家や将軍家、寺家やその周辺に存した伝承・説話が行き交う場と認められることから、室町期の文芸サロンとして位置づけられるとの見通しに至った。

以上の点から、2005～2007年度科学研究費の課題「比丘尼御所の文芸文化と室町期の説話・物語草子の研究」を遂行し、その成果を2007年度科学研究費の助成を受け、『仏と女の室町 物語草子論』（笠間書院、2008年）として公刊した。

上記の研究を起点とし、尼寺での文芸形成・享受の様相を明らかにするため、調査範囲の拡大をはかり、中近世の尼寺における文芸営為について考察を進め、「尼寺資料群」の体系化に取り組んでいる（2010～2012年度科学研究費「中近世の尼寺における文芸・文化研究 比丘尼御所を起点として」）。その成果の一部は、尼門跡・尼寺の関与のもと書写・伝来した書物を例に、時代やジャンルにとらわれず、制作・享受の場に照らした宗教テキスト研究の必要性を論じた「尼門跡および尼寺 女性のまなざしの許にある宗教テキスト」（『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年）などにも結実している。

一方、これまでの課題を遂行する途上、新たな書物の発掘により、貴族圏における仮名法語の形成・享受についても具体化してきた。たとえば、近衛家ゆかりの陽明文庫に伝来する「道書類」の調査・分析である（2008～2009年度科学研究費「陽明文庫蔵仮名法語類の研究 - 「道書類」を中心として - 」、各宗派の仮名法語からなる「道書類」には『幻中草打画』や『恋塚物語』など物語草子も収められ

ており、所有者に三時知恩寺の尼僧が推定される書物がある点や、女性に向けた言説が顕著な点などから、近衛家の子女が入寺した比丘尼御所での形成・享受の可能性が指摘される（「比丘尼御所文化とお伽草子 『恋塚物語』をめぐって」、『お伽草子 百花繚乱』笠間書院、2008年）。

同様に、室町前期の浄土僧隆堯（1369 - 1449）の写して、安土浄厳院にのみ現存する物語性豊かな仮名法語『発名能可利父子拔書』を発掘・分析し、内容および周辺資料の検討から、足利義満、二条良基ら近衛道嗣周辺で述作された可能性を指摘した。さらに近世初期までの禁裏の蔵書目録に、隆堯著作・書写本の書名が認められることなどから、当時の貴顕と寺家との書物を通じた交流が推察され、仮名法語と物語草子の生成・享受実態を明示する一例と位置づけた（「浄土宗談義と説話・物語草子 隆堯の著作・書写活動を端緒として」、『説話文学研究』47号）。

以上の事例から、物語草子と仮名法語とがいわば同列にみなされ、相互に関連しつつ変容・享受されていた様相が導き出され、書物を通じた寺院圏と貴族圏との交流実態の一端が明確となった。それは応募者がこれまで取り組み、明らかとしてきた比丘尼御所文化圏での文芸営為と同じ位相にあり、尼寺の文芸文化を相対化する事例ととらえられるのである。

2. 研究の目的

2010～2012年度科学研究費「中近世の尼寺における文芸・文化研究 比丘尼御所を起点として」で得られた成果を踏まえ、貴族圏伝来の仮名法語、及び寺院を経て生成・享受された物語草子の調査・分析を重ね、両者の相互連関性やそれを促す場について検討し、「尼寺資料群」との相関関係を考察することで、中近世の尼寺の文芸文化を相対化し、さらなる実態解明を目指す。

具体的にはまず、書物を通しての貴族圏と寺院圏の交流という観点から分析を試みる。寺家と貴顕との交流を具体化する書物群について、それらが貴顕の文化形成にいかなる役割を果たしたのか、中近世の古記録・公家日記・各蔵書目録等の書名（またその書写経路）と照合・分析し、当時の享受実態を復元する。その上で、貴顕と密接な交流を持つ寺院での生成・享受が想定される物語草子についても、仮名法語類に照らして分析をおこなう。

一方、京都・奈良の現存尼門跡、および旧比丘尼御所寺院など尼寺を介した物語草子・仮名法語類についても基礎調査を進め、上記資料群との相関関係を検討する。以上の具体的事例の蓄積により、「尼寺資料群」の拡充をはかりつつ、尼寺の文芸文化を相対化し、その文芸史・文化史的意義について考察することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、貴族圏伝来の仮名法語、及び寺院を経て生成・享受された物語草子の調査・分析によって、両者の相互関連性やそれを促す場について検討し、「尼寺資料群」との相関関係を考察することで、中近世の尼寺や尼僧の文化営為を相対化し、さらなる実態解明を目指すものである。

寺家と貴顕との交流を具体化する書物群と考えられる仮名法語類を中心に調査・研究を進め、平行してそれら仮名法語類との密接な関連が指摘される陽明文庫蔵「道書類」についても調査・研究を継続しておこなった。

同様に、室町期の寺院、及び尼僧関与の物語草子の生成・享受という観点から、各機関の文献調査をもとに口頭発表や論文執筆をおこなった。

4. 研究成果

2013年度は、陽明文庫蔵「道書類」のうち、女性による享受が想定される『仮名書き法華経』の抄出本、および法華経行者による陰陽道の星神信仰を説いた『星の事』と題される新出本について、新たに翻刻紹介した(『三田國文』57、58号)。

また、従来原態に女語りが想定されてきた常盤の物語を中心に、物語草子の所持や書写といった視点から、女性による関与の様相について具体的に論じた(「物語草子の制作と享受層 常盤の物語をめぐる」『源平の時代を視る』)。さらに、ニューヨーク公共図書館スペンサー・コレクション蔵『因果業鏡図』絵巻を取り上げ、経説絵巻の展開例について考察を試み、男性僧侶による女性回避の物語草子として位置づけた(「経説絵巻の一展開 スペンサー・コレクション蔵『因果業鏡図』をめぐる」『絵が物語る日本』)。

なお、これまでの研究成果を踏まえ、尼僧を中心とした女性と物語草子とのかかわりについて、アメリカのコロンビア大学、および国文学研究資料館で開催された二つの国際シンポジウムにおいて、それぞれ口頭発表をおこなった(“Women, Changelings, and Other Worlds in Otogi-zoshi”、「物語草子と尼僧」)。

2014度は、解脱上人貞慶が臨終の心得を説いたとされる『臨終用意事』の新出本について翻刻紹介した(『三田國文』59号)。本作にみる具体性は、良忠の『看病用心抄』(浄厳院蔵)などにも引き継がれており、宗派を超えて後世の臨終行儀書類に少なからぬ影響を与えたものの、現存伝本が極めて少なく、「道書類」内に慶長・元和頃の写本が伝来していたことは重要である。

また、禅宗の尼による問答を含む物語草子で、室町期の寺家と貴顕との交流を推察させ

る『幻中草打画』について、最古写本を所蔵する鶴満寺より原本調査の機会をいただいた。原本未見でまとめた旧稿の誤りを訂正しつつ再考を試み、関連文献の調査・考察をふまえた口頭発表や論文執筆をおこなった(伝承文学研究会平成26年度大会、人類文化遺産テキスト学研究センター国際研究集会)。あわせて、薦僧による女人教化の物語草子である大阪市立美術館蔵『はいかひ』絵巻を例に、公案の物語草子化について考察をまとめた(『中世の随筆』)。両作品を具体例に「尼と物語草子」の観点から考察をまとめた(『国語と国文学』92-5)。

2015年度は、従来白描の絵本が知られるのみであった『幻中草打画』に、彩色絵巻の現存することが新たに判明し、調査に着手した。こうした調査の成果をふまえ、研究の概要や経緯について「東京新聞」に「幻の骸骨絵巻を求めて」と題する小文を寄稿し(「東京新聞」「中日新聞」夕刊文化面、2015年6月15日)、国文学研究資料館の広報誌である『国文研ニュース』にも「室町の信仰と物語草子 骸骨の物語絵をめぐる」として小考をまとめ(『国文研ニュース』40)、研究成果を広く社会にも還元できるよう努めた。

さらに2014年度の原本調査から2015年度の新出本の判明にいたるまでを概括した上で、当該作品を中心に江戸初期の仮名法語の開版と物語草子制作との連動性についても考察し、本研究課題の主要成果として「骸骨の物語草子 『幻中草打画』再考」(天野文雄監修『禅からみた日本中世の文化と社会』)をまとめた。

なお、これまでの自身の研究内容をふまえ、女性と宗教テキストのかかわりという観点から、「女性をめぐる唱導 「卵生」と「授乳」の説話から」と題する講座などもおこない、社会還元を努めた(金沢文庫連続講座「仏教説話の世界」2015年10月3日)。

2016年度は一昨年度の原本調査から昨年度の新出本の判明などによって、本研究の予定を変更し、一年延長したことにより最終年度として成果発表のまとめに努めた。

2017年3月にハイデルベルク大学で開催された国際ワークショップ「写本と版本」(慶應義塾大学・ハイデルベルク大学共催)において、本研究の成果の一部について口頭発表をおこなった。これについては、本研究の延長上にある研究で、2016年度新たに採択された研究課題「16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の開版の相関性について」の研究における成果として提示した。

さらに、本研究の成果、および国文学研究資料館の国際共同研究の成果として、物語草子の尼僧を中心に英語でまとめた“The Current State of Research on Monogatari-sōshi: Women, Changelings, and Other Worlds in Otogi-zōshi”を『国文学研究資料館紀

要・文学研究篇』43号に掲載した。当該研究の成果をふまえ、これまでの自身の研究概要を英語でまとめ、公開したことにより、とくに海外の文学・歴史・宗教・美術の各分野の研究者より貴重な教示や有益な情報が得られ、今後の研究につながるものとなった。

以上の考察を契機として、とくに中・近世の寺院と貴顕との交流実態が明らかとなりつつあり、さらなる実態の解明を目指し、引き続き、2016～18年度科学研究費補助金基盤研究(C)の助成を受け、研究課題「16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の出版の相関性についての研究」に取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

KOIDA Tomoko “The Current State of Research on Monogatari-sōshi: Women, Changelings, and Other Worlds in Otogi-zōshi” (『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』第43号、査読無、2017年3月、12～39頁)

https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3265&item_no=1&page_id=13&block_id=21

恋田知子「尼と物語草子」(『国語と国文学』92-5、査読有、2015年5月、142～153頁)

恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十五)貞慶撰『臨終用意事』翻刻・略解題」(『三田國文』59号、査読有、2014年12月、96～99頁)

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/download.php/AN00296083-20141200-0096.pdf?file_id=97109

恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十四)『星の事』翻刻・略解題」(『三田國文』58号、査読有、2013年12月、65～71頁)

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/download.php/AN00296083-20131200-0065.pdf?file_id=89313

[学会発表](計4件)

恋田知子「尼と物語草子」人類文化遺産テクスト学研究センター国際研究集会「東アジアの宗教儀礼 信仰と宗教の往還」(於、名古屋大学、2014年12月14日)

恋田知子「骸骨の物語草子 鶴満寺蔵『幻中草打画』をめぐって」伝承文学研究会平成26年度大会(於、青山学院大学2014年9月6日)

恋田知子「物語草子と尼僧」国際連携研究「日本文学のフォーラム」第1回国際シンポジウム「もう一つの室町 女・語り・占い」

パネリスト(於、国文学研究資料館、2014年1月11日)

KOIDA Tomoko “Women, Changelings, and Other Worlds in Otogi-zōshi” International Symposium on Monsters and the Fantastic in Medieval and Early Modern Japanese Illustrated Narratives, November 1, 2013. 403 Kent Hall, Columbia University, New York City (USA)

[図書](計4件)

恋田知子「骸骨の物語草子 『幻中草打画』再考」(天野文雄編『禅からみた日本中世の文化と社会』ペリかん社、2016年6月、全408頁のうち98～114頁)

恋田知子「仮名法語の享受と文芸 大阪市立美術館蔵『はいかひ』絵巻をめぐって」(荒木浩編『中世の随筆一成立・展開と文体』竹林舎、2014年8月、全584頁のうち435～455頁)

恋田知子「経説絵巻の一展開 スペンサー・コレクション蔵『因果業鏡図』をめぐって」(国文学研究資料館編『絵が物語る日本』三弥井書店、2014年3月、全360頁のうち157～172頁)

恋田知子「物語草子の制作と享受層 常盤の物語をめぐって」(磯水絵・小井土守敏・小山聡子編『源平の時代を視る 二松學舎大学附属図書館所蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に』思文閣出版、2014年2月、全278頁のうち150～170頁)

[その他](計1件)

恋田知子「東京新聞」「中日新聞」夕刊文化面、2015年6月15日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

恋田 知子 (KOIDA TOMOKO)
国文学研究資料館・研究部・助教
研究者番号：50516995

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()